

平成24年1月31日

能代市長 齊藤滋宣 様

能代市市民活動支援センター登録団体

緑の景観を考える会 代表 福岡 徹

緑の先進地視察のご報告

昨春のランチミーティングでは大変ありがとうございました。

また、後日、残りの提案に対してもご回答いただきましたことに、あらためて感謝申し上げます。

「能代の緑の景観を日本一にするための提案」としてお話しさせていただいた対談でしたが、提案内容を実践している自治体があれば能代でも取り組みやすくなるのではないかと考え、この度、街路樹行政の先進地視察を行いました。「百聞は一見にしかず」。現時点でも能代が日本一なのではないかと思える点、ここを少し変えれば日本一になれる点など、実際に行政担当者と意見交換し、現地を見せていただく中でわかったことが多々あります。別紙報告書に視察の内容を記しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

今回の視察では、能代と先進地との繋ぎを作りたいとの思いもあり、市のパンフレットを持参するなどPR活動も行ってきました。そんな中で、行く先々で言われたのが「能代といえばバスケットですね。」です。外に出てあらためて、能代がバスケット日本一の街であることを知った次第ですが、「能代のバスケットが強くなったのは、当時の監督が日本一の監督に思い切って掛けた一本の電話が始まり。外に出て学び、能代独自の戦法を編み出したからこそ日本一になれた。」と話してきました。今回視察した中には能代と同じく発展途上の自治体もあり、二ツ井で行なわれた自然樹形再生の試みを参考に、緑の再生を行っている所もあります。今回は私たちが視察に出かけましたが、今後は全国から能代の街路樹を見に来る人が増えることでしょう。

能代がこの分野でも日本一を目指すなら、やはり外に出て学び、能代独自の管理法を編み出すべきとの思いを強めた視察行ですが、その第一弾として、この度、日本一を目指すための二ツ井方式による街路樹ビジョンを作成しました。視察報告書と併せてご覧いただき、今後の市政に活かしていただければ幸いです。全国からバスケットを見に来る人たちが、能代はバスケットも強いけど緑も美しいね。」そんなふうと言われる日が来ることを願ってやみません。

緑の先進地 視察報告書

作成 緑の景観を考える会

視察期間 2012年1月9日～13日

1 埼玉県和光市

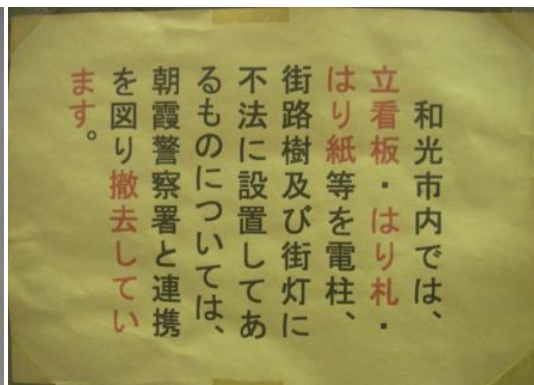
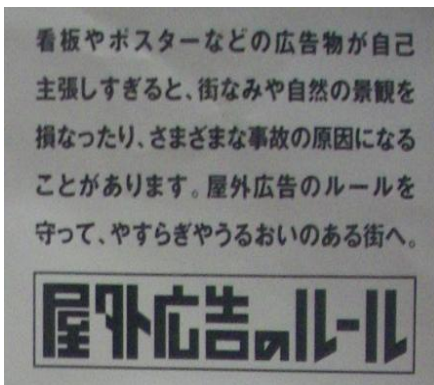


和光市庁舎



庁舎に隣接する美しいサクラ並木

- ・意見交換 和光市長 松本武洋氏 建設部道路安全課副主幹、総務部総務課課長補佐
- ・現場視察 庁舎内樹木、庁舎隣接街路樹、他
- ・提供資料 街路樹への看板規制の条例
- ・感想 和光市では、以前に二ツ井町で行われたイチョウの透かし剪定を参考に樹形再生が進められている。能代のやり方が首都圏で活かされているのは本当に嬉しい。再生はすぐ形に現れるものではないが、その片鱗は随所に垣間見られる。市長さんは市議時代から街路樹改善を提案し、名刺にも街路樹の写真を付けるほど、緑に対しては熱い思いを持つ。職員の方も熱心で、こちらが指導をお願いしているつもりが、逆にアドバイスを求められたほど。トップ自らが精力的に動き、職員もやる気がある。和光市の緑が再生する日も近いと感じる。
- ・能代に活かせる取組 街路樹への看板規制の徹底（以下はそのポスター）



2 埼玉県久喜市

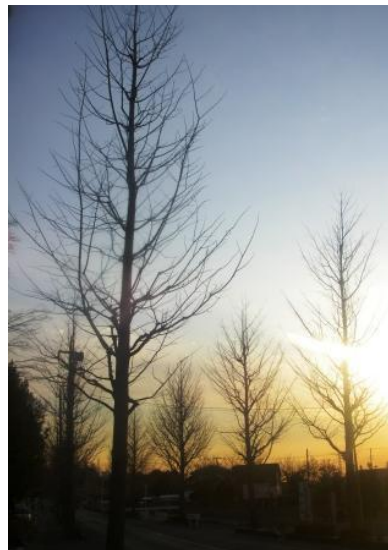


庁舎前のイチョウ並木



市の木であるイチョウをあしらった側溝のふた

- ・意見交換 久喜市議会議員(現副議長) 石川忠義氏
- ・提供資料 久喜市街路樹条例
- ・現場視察 久喜駅周辺、庁舎周辺街路樹、市内各所



整形的なイチョウの剪定(左)と、強剪定後、柔らかな枝が再生してきているイチョウ(右)

・感想 全国で初めて街路樹条例が制定された久喜市。条例提案者の石川議員から議会控室で条例の説明を受ける。久喜市では条例制定後に市町村合併があり、周辺市町の意識があまり高くないことなどもあって、条例通りには行っていない面もあるとのこと。これは、合併により二ツ井から改善を呼びかけられた能代と逆だった。実際の街路樹を見て、条例後、太い枝で切られることは無くなったようだが、細い枝は短く刈り込まれていることが多く、どこまでがブツ切りでどこからがそうでないのか、明確な基準が必要と感じた。これは、現在行われている能代の剪定にも言えることで、今後、能代が条例や仕様書を作る場合には、図や写真を添付するなど細かい部分まで明記する必要があることと、樹木剪定は現場の感覚が大切なことから、現地での見本剪定等の説明は必須と思う。そして、責任をたらい回しにすることなく、「決めた条例や仕様は絶対に守る」、この当たり前のことを、行政、市議会、受託業者は肝に命じなければならないと感じた。

3 東京都江戸川区

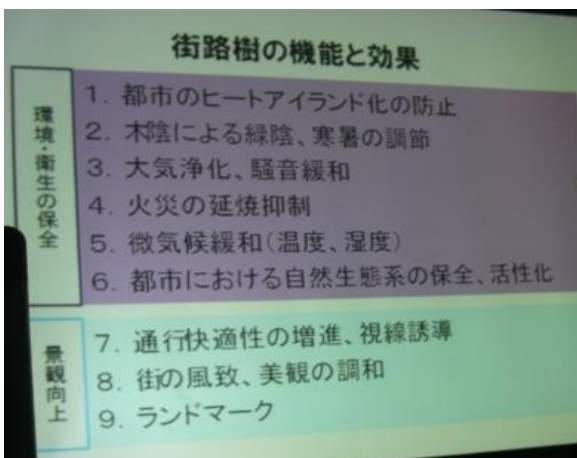


緑に囲まれた江戸川区役所庁舎



庁舎脇にある自然樹形のイチョウ並木

- ・セミナー パワーポイント「街路樹を考える」江戸川区の街路樹と取り組みの説明



- ・意見交換会 江戸川区土木部保全課街路樹係 係長 他2名
公益財団法人 えどがわ環境財団 緑の推進係係長（樹木医）
都内近辺造園関係者2名
- ・提供資料 緑の景観を考える会からの質問書に対する回答書（添付）
江戸川区街路樹指針 CD、「街路樹を考える」パワーポイント
（江戸川区 HP 江戸川区街路樹指針「新しい街路樹デザイン」）



意見交換風景



さりげなく能代をアピール

- ・現場視察 区内街路樹各所



枝先の柔らかなプラタナス。幹と枝の太さの差が少なく、一見シラカバのような雰囲気を感じさせるしなやかな枝ぶり。



緑のトンネルを作るケヤキ並木 枝が中央線を越えていることに注目。歩道側を短く道路側を長くしている街路対応型樹形。



公園内の歩道に面した無剪定のイチョウ。これも、街路樹系の管理。



剪定風景 強剪定後に樹形再生されたもので、芯の残し方に違和感がない。剪定者と枝片づけ、誘導員での作業は能代と同じだが、作業を指示する者が常に配備されている点が素晴らしい。確かな仕事をする姿勢が施工者にあり、丁寧な仕事を保障する体制が行政にある。工事看板は一般的な「街路樹剪定」ではなく「樹木の手入れ」。行政に、木への愛情や職人的な感覚があることが判る。

・感想

江戸川区街路樹係さんには本当にお世話になっている。こちらが頼まなくても資料を提供いただいたりしているが、そんなご恩をなかなか能代に活かさないでいることが本当に申し訳ない。能代のバスケの始まりは、当時日本一の監督に掛けた、勇気ある一本の電話から始まったという。そんな話を聞いていたせいか、数年前、ダメもとで掛けてみた電話から交流？が始まり、今回ようやく係の皆さんとお会いできたのは本当に嬉しい。今、能代で行われている（と思う）見本剪定（試験剪定）は、江戸川区で行われていたものを参考にしたもので、施工者の技術力の確認や、これから行う剪定の見本を行政担当者立ち合いの元に行うものだ。この審査に合格しなければ業者は剪定に参加できない。江戸川区では独自の街路樹指針を持ち、街路ごとの樹形や剪定法が確立されているが、その業務受託者はプロポーザルによって選ばれ、技術、理論ともに理解できない業者はふり落とされる。その代わり、一定の基準を満たす者は随意契約によって一年間管理を任せられ、評価基準を満たしていれば、その後は特命の随意契約となり、街路に付随する公園管理も任せられる。江戸川区では、街路と公園を一元管理しているが、これは行政が街路樹と公園が連続する緑の景観であるということと、職人の手の違いを理解しているということ。プロポーザルなら本当にやる気のある業者が集まり、技術力の審査もあるから一定のレベルを保つことができる。剪定仕様も無ければ技術力も関係なし、額を低く書いた者が落札できる仕組みでは業者の意識も下がり、それが街の木の姿にそのまま表れる。下写真は、道路の中央線を境に右が江戸川区で左が某区。樹形の違いが管理者の意識や体制を物語っているようだ。



専門職の居る専門の係があり、理想的な管理体制を持つ江戸川区であるが、能代が優れている部分もある。それは市県の連携。区道に面した都道の街路樹はブツ切りが多いが、能代では県国道からもブツ切りが消えた。そしてもう一つは樹形の柔らかさ。樹木医を擁する江戸川区では、理論上、細い枝先を切るのは木の生育にそれほど支障が無いとの考えから、枝先を刈り込む場合もある。能代では、まだ一部ではあるが、枝先を全て残す柔らかな剪定も見られることから、それが市内すべての樹木に行われるようになれば、美観や剪定技術の点でも、能代の街路樹は日本一になれる。江戸川区でもその昔は強剪定が行われ、そこから立ち上がった。東京に来て、能代に出来ないわけがない。

4 東京都大田区田園調布イチョウ並木



レトロな雰囲気漂わせる駅舎



歩道側の枝を短く道路側を長く、反対側の歩道まで枝を伸ばす、街路対応型の特徴的な樹形。このような並木が駅から三方に放射状に続く。夏に来れば、圧倒的な木蔭の量に驚くことだろう。



木と木の間の枝も出来る限り伸ばしている。



歩道側と上部は刈り込みに近い。



左。比較的若い木が補植されていた。歩道、上部ともまだ切り詰めは行われていないが、道路側の枝はすでに中央線付近まで達している。このぐらいの柔らかさで樹形を維持していければ素晴らしい。右。美しい並木ではあるが、区条例の看板が少し残念。

落ち葉掃除をされていたご婦人にお話を伺うと、落ち葉のじゅうたんは圧巻で、全国から見学者が訪れるとのこと。家側は短く切り、切られた分の栄養補給のために道路側の枝を伸ばすという、この並木は人にも木にも優しい手入れを行っていると話すと、「そうだったんですか？知りませんでした。」。人の暮らしと樹木が、当たり前のように共生している雰囲気が嬉しかった。

5 神奈川県横浜市



横浜市役所前の自然樹形のイチョウ並木



同 正面は横浜スタジアム

- ・意見交換 横浜市道路局道路部施設課 街路樹担当者（専門職） 2名
- ・提供資料 横浜市街路樹維持業務委託共通仕様書
(横浜市 HP「[道路局](#)」>[施設課](#)>[横浜の街路樹](#)>街路樹維持業務委託関係資料」
「いきいき街路樹事業」における街路樹剪定に関する特記仕様書
- ・現地視察
① 馬車道通り



建築と調和する自然樹形のアキニレ



自然風剪定により伸びやかな樹形となっている



近代街路樹発祥の地の石碑



すぐ近くにある国道16号がブツ切りなのが残念

② 海岸通り



ほとんど無剪定状態のカツラ並木。条件のいい所では無理に手を入れる必要はない。

③ 日本大通り



慶応2年の横浜大火を契機に、防火対策として植えられたイチョウ並木。高層ビルに沿い、自然樹形の大きなイチョウが連続する様は圧巻の趣。2010年、この横浜のシンボルを将来にわたって保全するため、景観法に基づく「景観重要樹木」として指定された。



樹高は建物の6階程度の高さがある。



樹間の広い箇所では伸び伸びと枝を広げる



(右) 歩道を広く取り、枝張りを出せるよう計画している。(左) 横浜公園から見た大通り。園路は街路と同じ幅で真っ直に繋がり、常緑樹の緑のトンネルを抜けると視界が一気に開ける。連続性のある街並み景観は美しく、街の広さや緑の豊かさを助長する。



樹皮の早期再生と腐朽防止のため、横浜市の剪定仕様書に基づき、適正角度で切断されている。弘前方式同様、切り口には殺菌剤に墨汁を混合、景観にも配慮している。

④ 山下公園通り



日本大通り同様に、自然樹形を尊重した大きなイチョウが連続して続く。



山下公園通りに隣接する街路。街路と公園の両方にケヤキを植え、街並景観の統一を図っている



(左) 支障枝の切り詰め等、硬い剪定も見られる。このような事態を避けるためにも、枝張りの縮小に備えて懐枝を残しておくことが大切。(右) 管理者が違うのか、隣接するイチョウはブツ切りとなっていたのが残念。同一樹種の景観として、自然形に統一出来ればと思う。

・感想

文明開化の地横浜には街路樹発祥の石碑もあり、西洋から伝わった近代街路樹の文化が正統的に受け継がれている。港町であることや、大火対策としてイチョウが植えられた点など能代と共通する部分も多く、管理法についても大いに参考になる。中でも、日本大通りのイチョウ並木は圧巻で、名実ともに横浜のシンボリックな景観であることを感じた。ぜひ、能代の皆さんにも見ていただきたいと強く思う。

横浜市の剪定仕様書には、樹木匠が採用する CODIT 理論に基づく剪定法が記載され、「ブツ切りは行わないこと」としている。枝や幹の付け根で切るこの剪定法は、それ自体がブツ切りを禁止するものである。切断による腐朽を防ぎ樹皮を早期再生させるこの方法は、まだ能代では行われていない。腐朽は倒木を招き市民の安全に関わることであることから、早く能代でも導入すべきと考える。

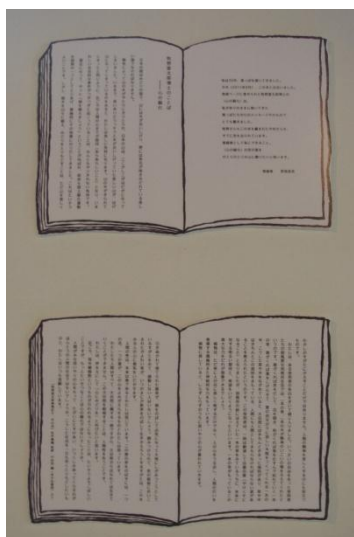
また、この剪定仕様書には支柱の撤去についても明記しており、(第8章支柱補修等 第53条)「健全に生育し、傾倒の可能性がなくなった樹木については、美観を損なうものになるので支柱を撤去する」とある。能代には、看板等の規制も含めて、景観に配慮するといった意識が不足していることから、条例や仕様書に明記することで、担当者や作業員、受諾業者への理解を深めることも必要と考える。

尚、剪定作業にあたっては、江戸川区同様に、担当者立ち会いの元に見本剪定を行ったり、受託業者向けの剪定講習会を開催するなど、業務が適正に行われるよう配慮している。ただ、江戸川区が随意契約で行うのに対し、横浜市では入札制で行っていることから、業者の技術力やモチベーションを維持することが難しいのではないかと思う。そんなことが、実際の樹形に現れていることも否めない。

終わりに



今回は、行政視察の他に、「街路樹葉っぱの詩」の作者（日本で唯一の葉画家）である、群馬直美さんの個展会場にも足を運んだ。街路樹マップ片手に東京中の街路樹を歩き、そこで拾った葉っぱを描きためて一冊の本にされた方。街路樹をここまで愛してくれている人がいることに感動、一度お会いしてみたいと思っていた夢がかなった。



私は30年、葉っぱを描いてきました。
今年（2011年9月）、この本と出会いました。
巻頭ページに寄せられた牧野富太郎博士の
〈心の緑化〉は、
私がありのままに描いてきた
葉っぱたちからのメッセージそのもので、
とても驚きました。
牧野さんもこの本を翻まれた中村さんも、
すでに世を去られています。
葉画家として私にできること。
〈心の緑化〉の言の葉を
ひとりひとりの心に贈りたいと思います。

葉画家 群馬直美

個展会場には、群馬さんが感動したという「**心の緑化—植物には、人の行いを善導する神秘的な力がある**」との牧野富太郎博士の言葉が掲げられており、これを見た時、なぜ自分は能代の街路樹を守ろうと必死になっているのかという疑問が解けた思いだった。ふるさとの街の木を救いたいと思って始めた活動だけれど、実は、その街の木たちから、人として生きるための善の方向へと導かれていた。それを今回、この言葉と出会って知った。「街路樹葉っぱの詩」を開いて一番初めに出てくるのは、群馬さんの暮らす立川市のイチョウ並木。タイトルは、「私の街のイチョウ並木」とある。私にとっての「私の街のイチョウ並木」はどこだろう。真っ先に思い浮かぶのはやはり、ふるさと二ツ井の、あのイチョウ並木だ。折りしも、今回、和光市を訪れたのは、この二ツ井の並木の剪定法を参考としていただいたからだった。東京、横浜、埼玉と、素晴らしい街路樹をたくさん見た最後に行きついたのは、可愛くて可愛くてしょうがない、ふるさと二ツ井の街の木たちだった。

以上報告終わり